

●廃村となった山里から、さらに山奥へ5kmほど杣道を歩いた所にあった鉱山について調べている。
鉱石は轎に載せ、牛に曳かせて運んでいたそうである。
その鉱山は大正時代に閉じてしまったのだが、
戦後、そんな山奥にあった鉱山の宿舎を利用して、私学校を開設した人がいた。
その学校は移転を重ねて現存しており、こちらについても調査中。
公開できるかどうかは微妙なところ・・・。(つ)

●久しぶりに読んだSF小説からヒントを得てネタを仕込んでました。「小説の舞台になった道」を尋ねてみようというネタです。次号には記事になるかと思いますが、小説のあらすじがわかってないと面白くないので、興味のある方は [堀晃氏が公開しているテキスト](#) で予習しておいて下さい。横書きHTMLが読みにくいという方は [勝手に作った縦書きpdf版](#) をご参照あれ。(←一承諾を得ているわけではないので怒られたら消します)

すでに取材は済ませてあるのですが、主人公の足跡を辿ってみて、実によく作られたプロットだなあという思いを新たにしました。30有余年を経てもなお変わっていないシーン、変わってしまったシーンを紹介しつつ、そのへんを読み解いていけたらいいなと思います。(どんどん廃道から離れていく(な))



BEAR TYRE